



永島福太郎録
麿嶋

戰記

後編二号
加賀吉板



A445
2

永島福太郎録
永島子孟齋畫

繪本 鹿兒島戰記

東京書肆

青盛堂版

鹿兒島戰記後編第二号

永島福太郎録

再説 熊本鎮台
兵廿一日の早天より
竹の家めて開戦
あり多に薩兵の
勢ひをげく連日頗る
烈戦あて廿二日の曉まで
砲声絶る間もくたがひ小
必死の大奮戦をひかやう
多く薩兵の勢ひ
衰へて退きたる同日
同夜 大津へ屯集す



薩兵 三浦
少将の命へ
かゝる
一昼夜
の激戦
兵大の
敗走
るはと

48-7898

三浦の隊追撃して遂に大津を
乗とりりさる薩兵日向路を

さして引あげたる同日
開拓使長官兼陸軍中將

黒田清隆君の参

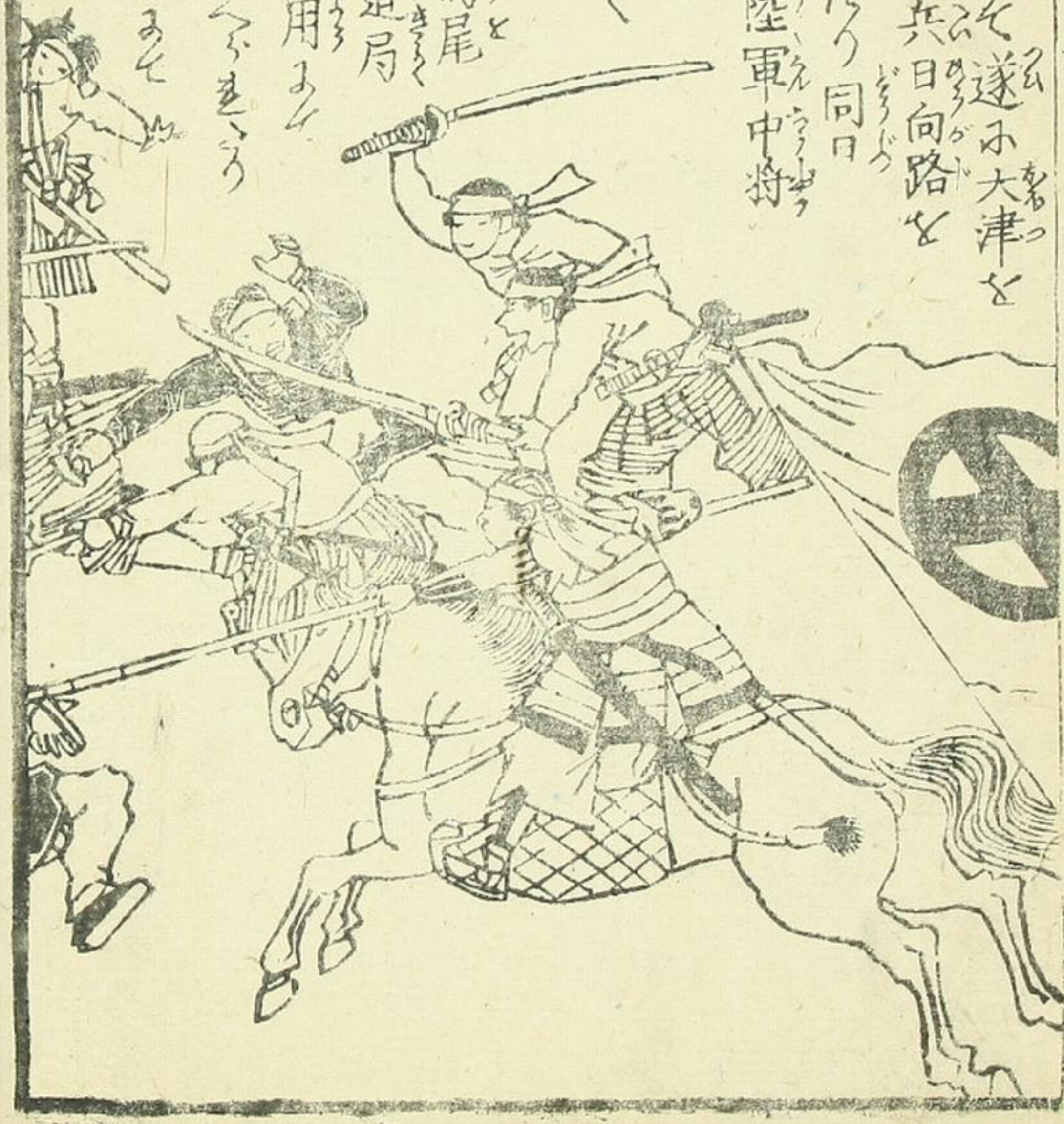
軍と免せたる

戦地より帰京
せしむるの亦鳥尾

中將と井上鏡道局
長の両君の急用より

戦地より西京へかへる
茲に矢部と山がもて

官軍のため



追撃さる

兵は

ととく日向の

馬見原まゝ

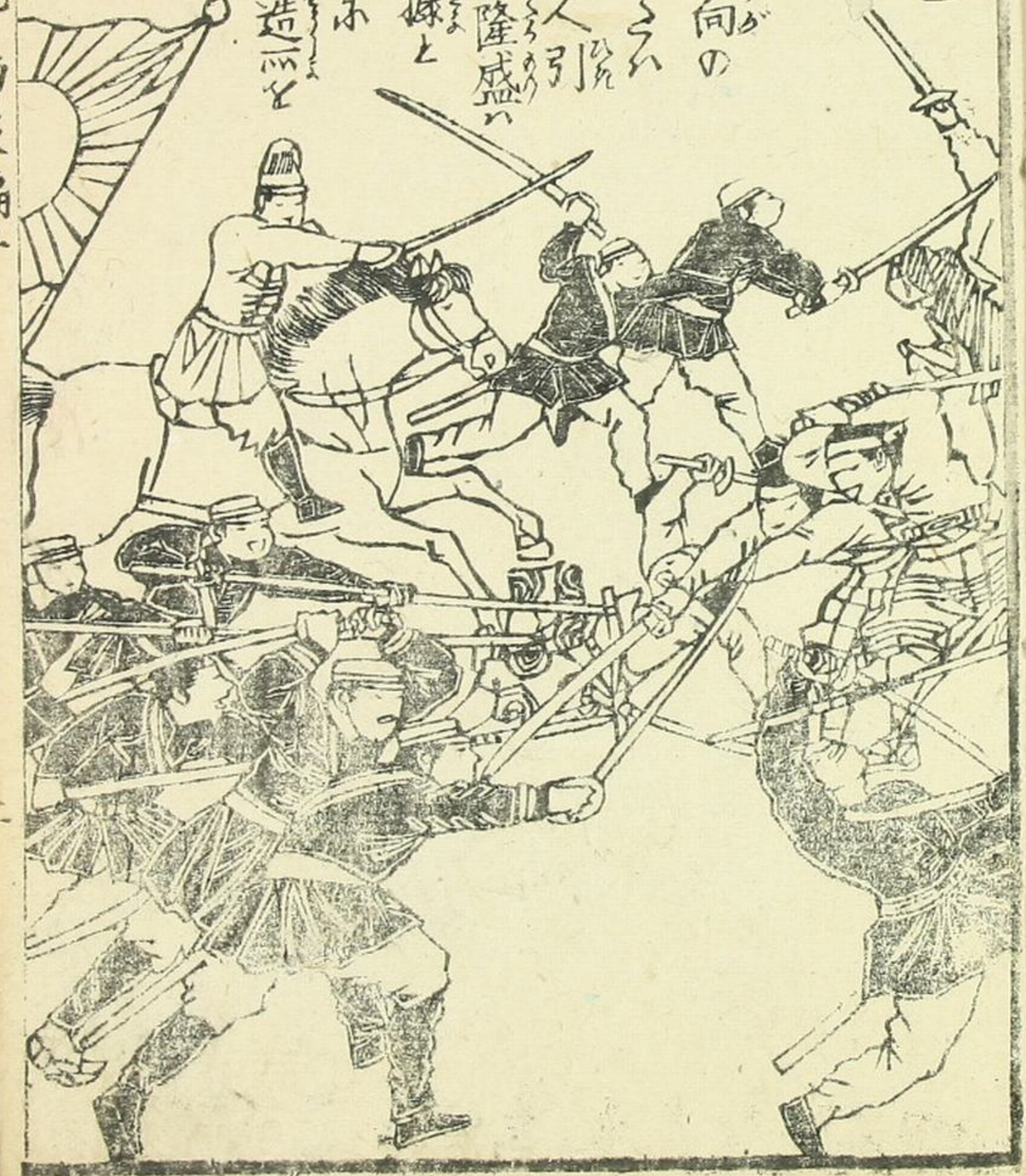
人吉のくえり

退るに西隆盛の

人吉と根據と

あー彼処に
弾薬の製造

まらけ
日々ちや
の差別



弾薬と製造する所をたつ

さて肥後の國

高橋より出帆

たる官軍は同二十日

鹿兒島へ着港

直ち小上陸す

つともめて

薩軍へくじ

て彼

ホの

名

尽に

右松祐永



今藤宏

カ

同縣士族七等

出仕右松祐永大属

今藤宏松元武雄箕田長徳

等のののさしと捕縛せり

あるに此地の官軍進入と

よと聞より縣下の人民

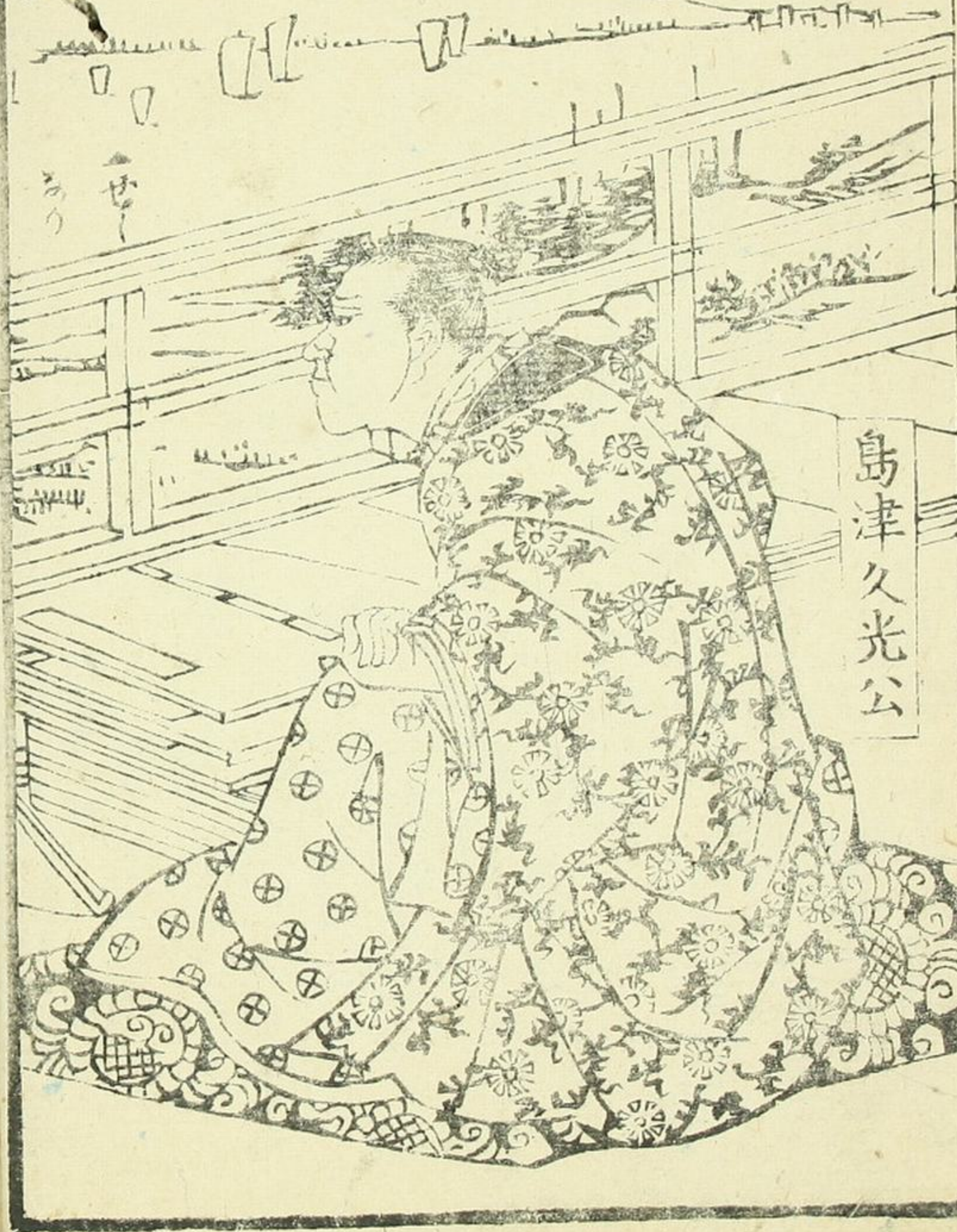
松元武雄

安く家賊とたぐさるる

島へ主の死市中の人家に入る

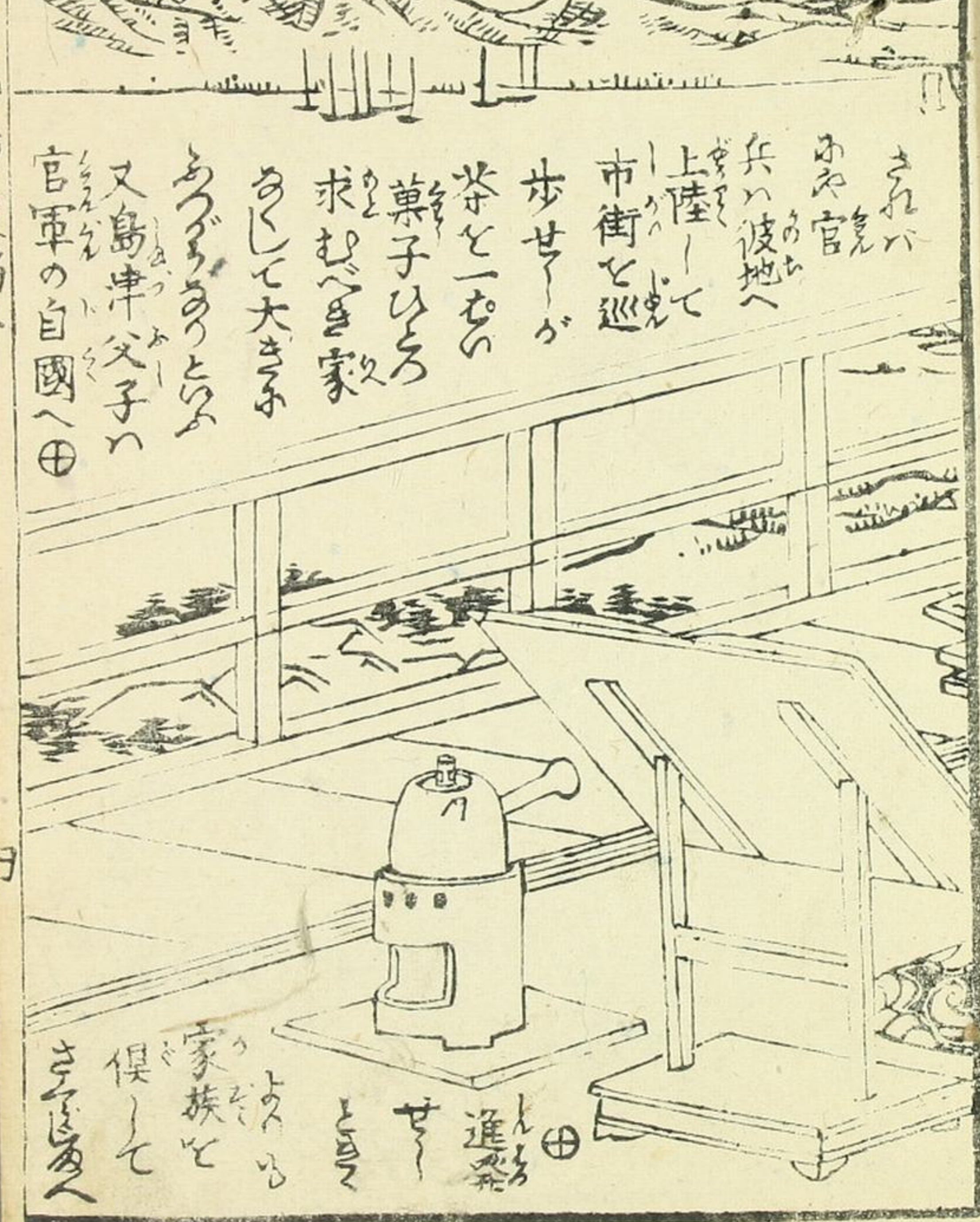


明家と
ありて人
影さかた
偶然
止る者
近在
小住
まじ
農
民



島津久光公

此輩
立退
生活
立べ
目的
何
詮方
居



兵の彼地へ
上陸して
市街を巡
歩せしが
茶を一むの
菓子ひた
求むる家
あつて大き
又島津父子の
官軍の自國へ

進
せ
と
家族
候して
さ

見
方
二

立のき同所の温泉場小仮住居と
いふをいけり亦縣廳の大書記官

田畑常秋とのり
のの兼て朝廷
より屢々出京と命せしに

かどその身暴徒に與
居るや兎角かきこれ

延日あせしうの遂小官
位と號集さしと

官軍の至着のせん
何う暴徒と激論をせ

しが後終小割腹と
相とととと



竹柵の同より

○ささる官軍の鹿見島と

根據とほ城の後る

城山へ砲墨ととる

其ふのとる

甲突川の

岸へ胸壁あつ

築き川中へ

竹あて柵と結ひ

川下せせりて

川水とせり敵あせまる

とて容易小つたりかて又

竹柵の内あつ船と久銃隊

兵士あつ備へ敵間近く寄る



発砲しとと

あつんと待たせり○茲小

暴徒の別隊ある貴島隊の

主將貴島印太郎の鹿見

島近傍小備

軍官

城山の

要害

と口惜くあつひ赤ご用

意の救兵のさる内此方へ

大集ひ官兵の此地の足
止まらざるや 追退を
て呉んと小隊長
能勢九十郎
二千余の兵
五月早天
うり標出



能勢九十郎

勢九十郎と
縣下お名ど

別隊

敵

兵胸壁の
準備
指令は
打と伍長の
とかがく
鎮台



貴島清

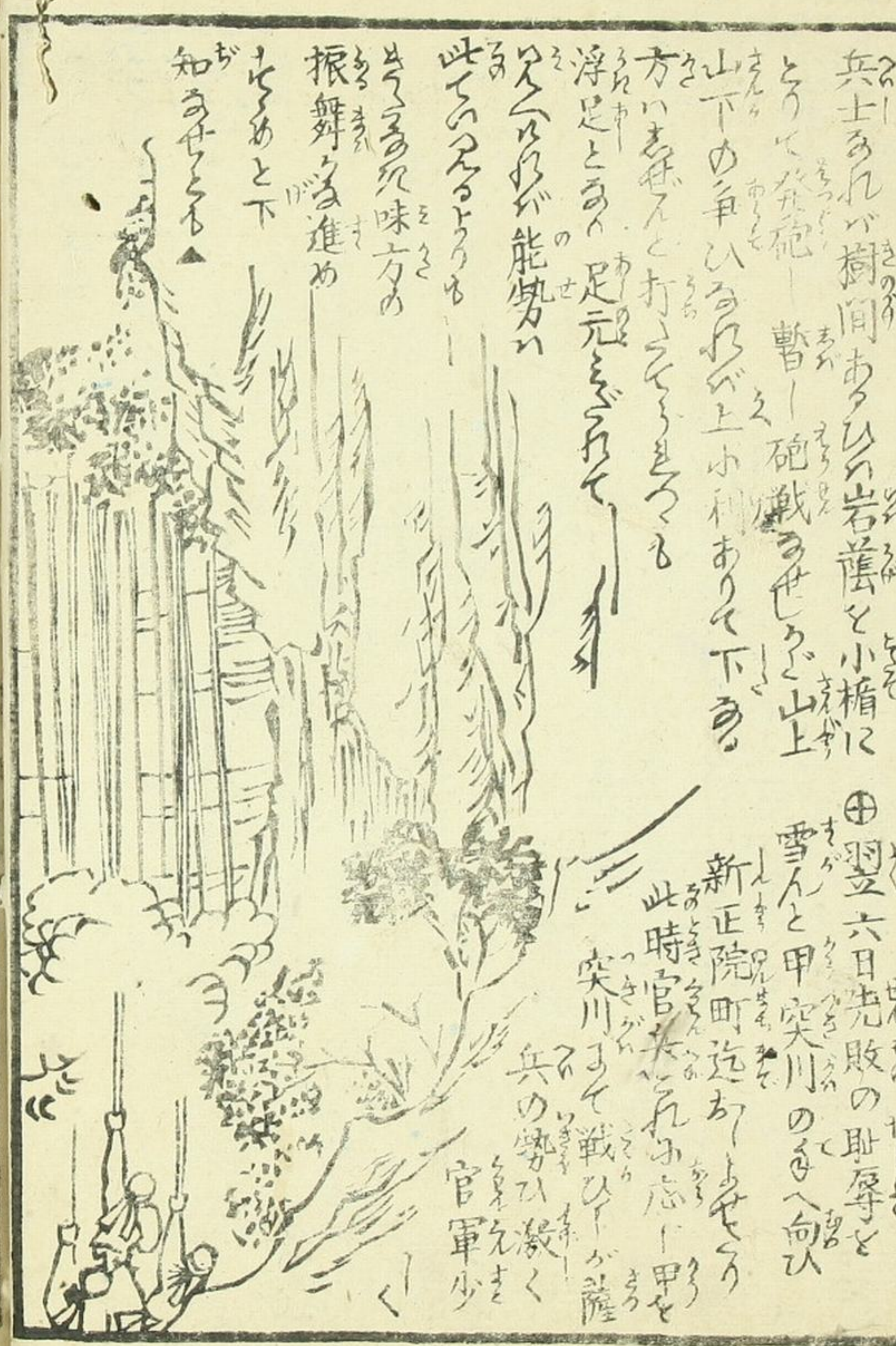
撃剣家ゆえ強勇無
及の武士るれが只一挙の
打破らんと勢ひきま
破竹の如く間道より
のまにみんで攻めり
間合わくあり
頃能勢と
号今をの
が先進
隊か山銃
上の官軍め
救十挺の筒

■そろへ一時
激しく連発する
官軍の方

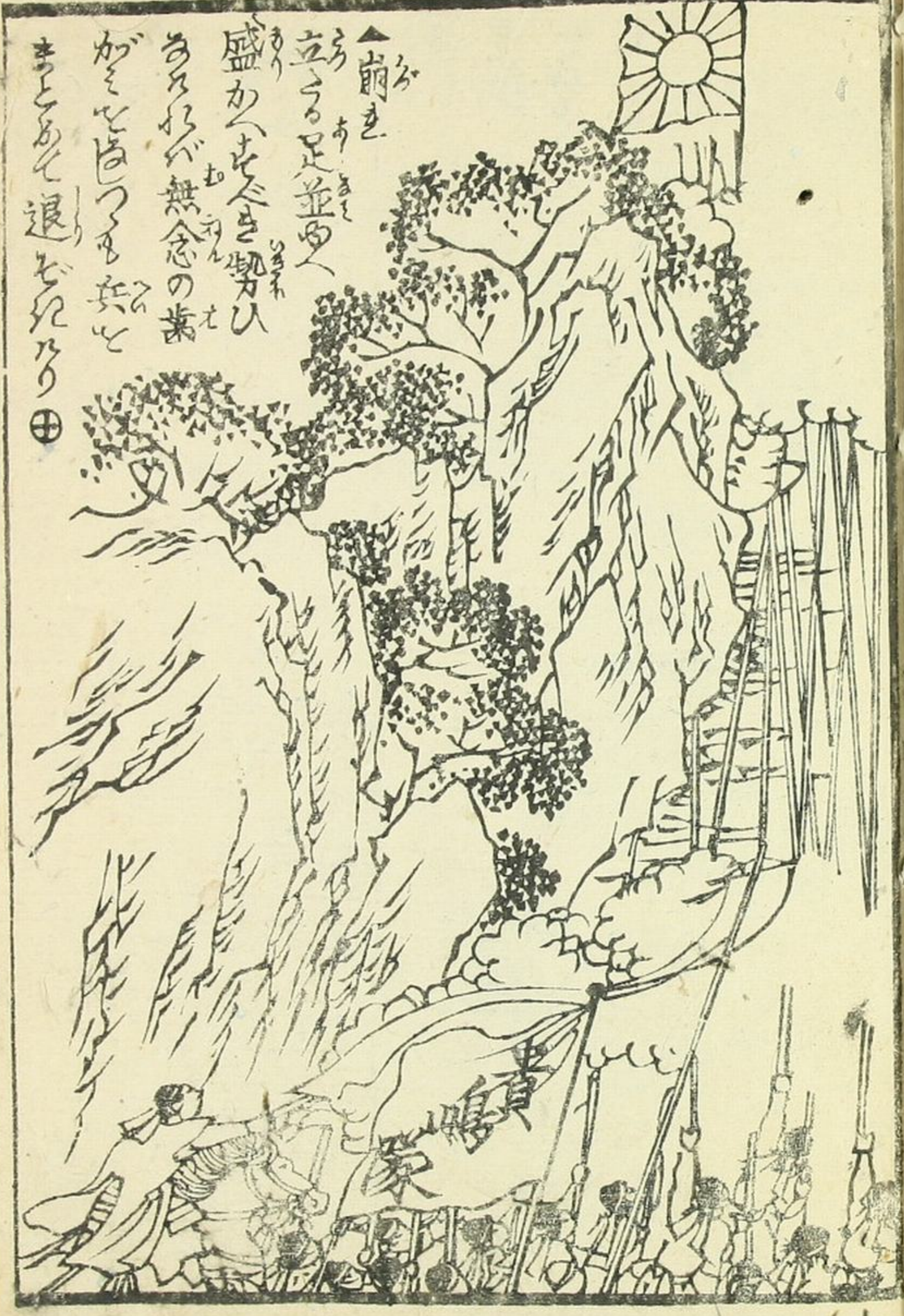
兵胸壁の
準備
指令は
打と伍長の
とかがく
鎮台
の先
奉下り
守り
か

兵士多れば樹間あり以て岩蔭と小楯に
 たりて発砲一暫し砲戦多しと山上
 山下の争ひるは上小利ありて下も
 方いおれんと打つておれりとも
 浮足とあり足元をたれて
 足元は能勢の
 此のころとも
 此のころ味方の
 振舞多し進め
 下めと下
 知るせとも

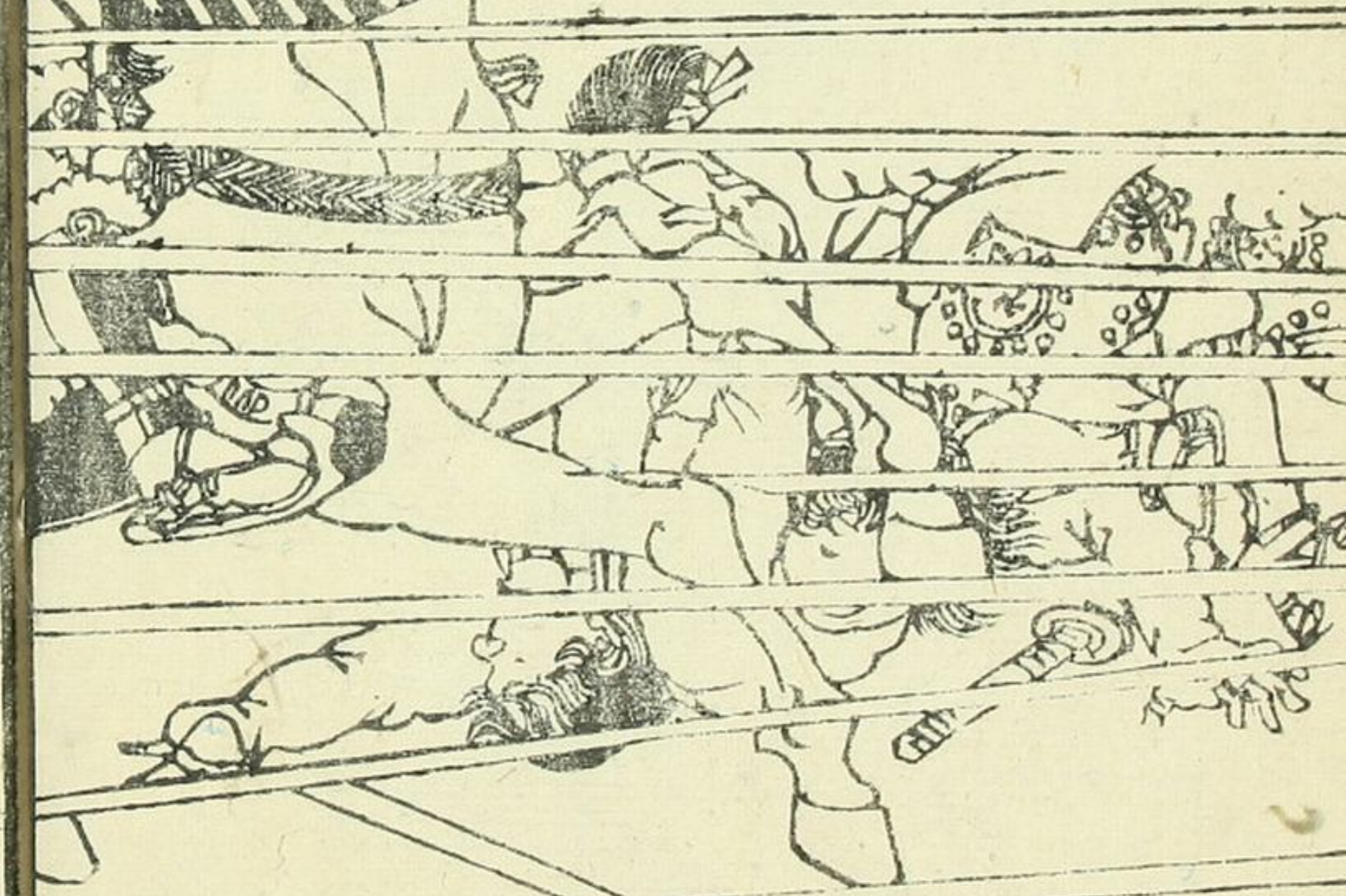
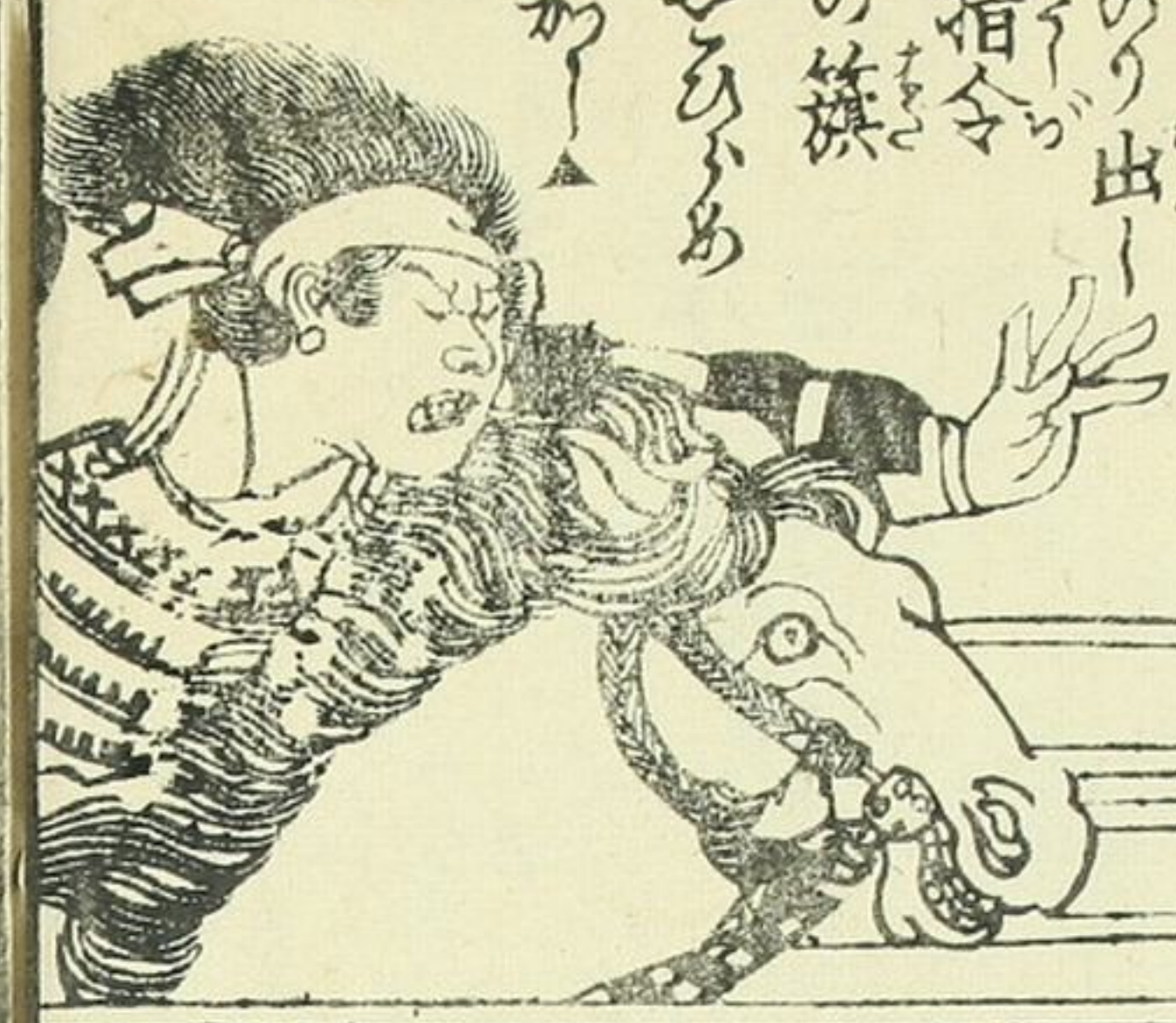
⊕翌六日先敗の耻辱と
 雪んと甲突川の谷へ向ひ
 新正院町迄おれり
 此時官軍はれおれり
 突川まで戦ひて薩
 兵の勢は衰く
 官軍少



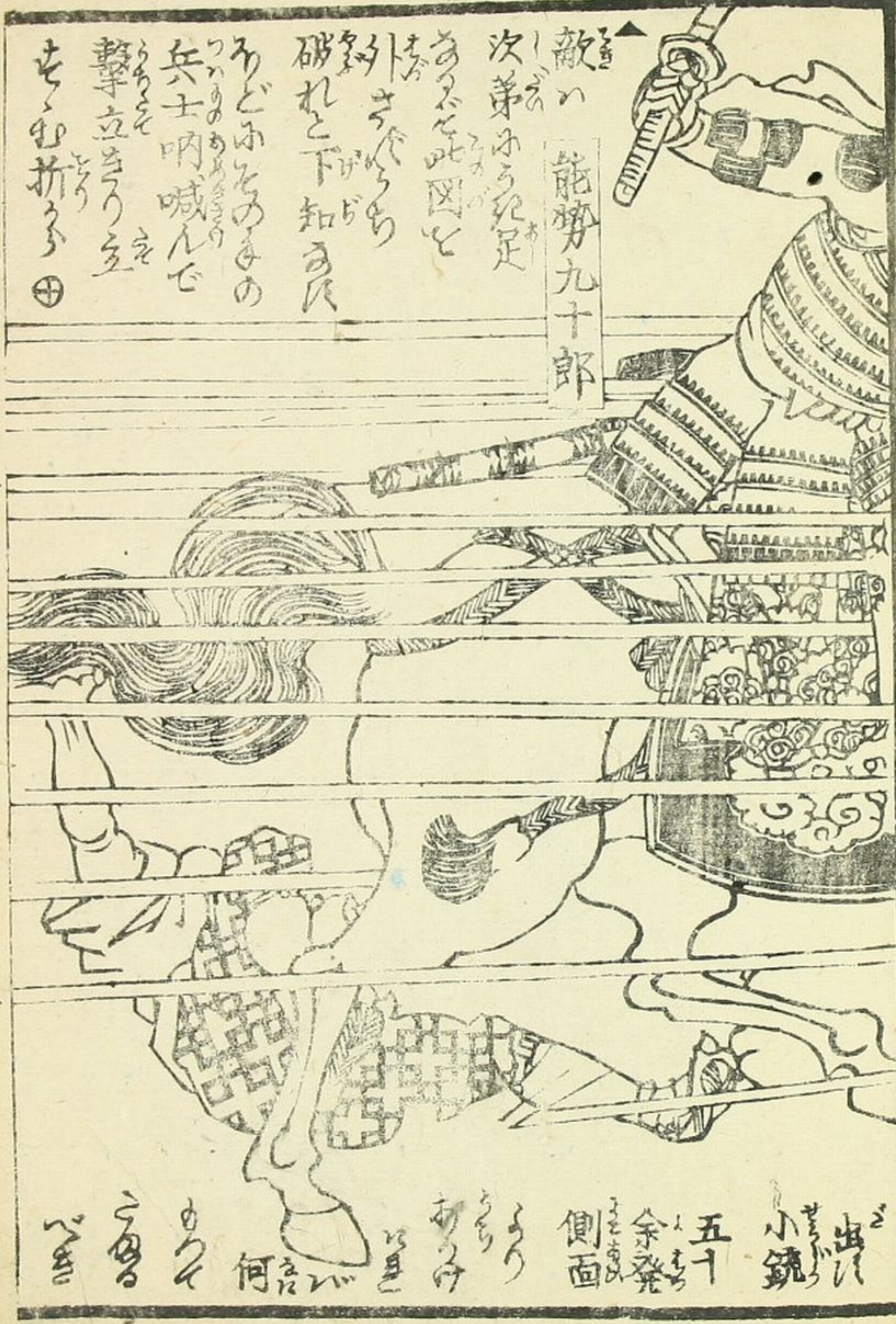
▲前
 立ち足並
 盛かたはなき勢ひ
 さるは無念の業
 かまはつとも兵を
 まとめて退せたり



足並をたれ川下
の方へと退る
はさやあうと
九十郎自ら
真先み馬
のり出
指令
の旗
か



川中
お後け
竹柵の
そらに
一隊
それと
あ
つと
さむに
うら



敵の
能勢九十郎
次第ふら足
あふて此図を
外さるる
破れと下知る尺
あどふそのまの
兵士呐喊んで
撃立さるる
まむ折る

出
小鏡
五十
余發
側面
あ
は
何
ゆ
ま
ま

隊長能勢とせしめて先みすに

二三十人バツタくとらち倒さる

大将とこれに隊伍をこれ

再びすむ勇気くちぢ

大敗軍とありこれに

官軍ちちち引

久々烈あく

追撃する世に

暴徒いこる

す伊敷とせし

とま委く敗走

鹿兒島戦記後編第二号終



○首

三号四

号ひ

いづる人吉め

戦ひより出水口

の激戦豊後路

の戦事と

引つぎ 出板仕

010190508000

